

【ねがいましては】

平成24年2月24日
第256号

KYOWA SCHOOL

「^{もうこりた}忘己利他」

2012年1月8日付の読売新聞に、この4字がありました。内容は「自分の事を忘れても人のために尽くす」。天台宗最澄の教えだそうです。宗教を詳しく学んだわけではないのですが、日本人らしさが漂うところだなと感じました。朝霧に包まれた深い山並みに漂うすんだ空気……。それを胸いっぱい吸い込んだ時に感じられるようなところ……。

相手に見返りを求めない。それどころか、目の前の人、ただいだけで、深い感謝の念に駆られる……。人の前に立つと、自然に湧き出る敬いのところ……。

ここまで書いてしまうと、ますます現実から遠ざかっていってしまうのが、なんとも寂しく感じられます。

子どもたちが育っていく環境が、毎日このようなところに包まれていたら、きっと毎日真剣に机に向かうはず。楽を見つけては、そこに留まってしまうような事もしないはず。常に他人との比較をし、優劣を考えてしまうこともしないはず。

子どもたちを取り巻く環境が変わったらいいのになー……。と、ため息をついてしまう自分がいます。

時々ですが、そんな気持ちに灯りがさす瞬間があります。見学などで保護者の方がいらしたときです。そこにもし中学生がいたとしたら、自然と出てくる椅子、自然と出てくるお茶……。なぜかそうしなさいと言ったわけでもなく、自然のうちにそうになっていただけのことなのですが、「忘己利他」……。あったのです。

人の喜びを自分の喜びとする。そこには「気」が存在しており、前向きなところも存在します。生きる基本があります。人をもてなし、そこには一切の見返りを求めない。人と人が接する基本があります。それを子どもたちが自らの判断で当たり前のように行う……。私の心は温かいばかりです。

さて、そのようなところをまったく起こさせなくする子への対処法があります。皮肉に聞こえるかもしれませんが、実に「はっ」とさせられるものを紹介いたします。都内、某小学校に勤務される校長先生からいただいたものです。

宮沢賢治さんの「アメニモマケズ」の正反対バージョンとでもお考え下さい。

雨にも当てず 風にも当てず 夏の暑さにも当てず 弱い体に超ミニスカートやルーズソックスをまとい
茶髪にピアス、Tシャツの裾を外にだらりとなびかせ キーの束をぶら下げたズボンを腰からはずれるように履き
意欲も気力もなく、ぺっぺつと唾を吐き散らしながら いつもぶつぶつ不満を言っている 1日に何本ものジュースや
コーラを飲み ご飯も食わずにインスタントもので済まし 毎日目標を持つこともなく 携帯電話に夢中になって
頓狂な声をあげ 朝から地べたにペタリと座り込み 集会があればじっと立っていることができずすぐ倒れ あらゆる
ことを自分の為だけに考え顧みず あたえた作業はぐずぐず 注意散漫直ぐに飽き そして一切の責任をもたず
とかく問題の多い都市化の中の最も豪華な部屋にいて 東に病人がいれば医者が悪いと言い 西に疲れた母あれば養老
院に行けと言い 南に死にそうな人あれば寿命だといい 北に喧嘩や訴訟があれば遠くから眺めてかかわらず 日照り
のときは冷房をかけて昼寝をし 寒さの冬はヒーターをかけてゲームをし 仕事を頼めば「勉強」を隠れ蓑にテレビを
見続け 手伝いもせず 叱られもせず 怖いものは全く知らず そういう現代っ子に誰がした

岩手県盛岡市の小児科医が学会で発表したものをもとに、東北地方のある地域安全推進連絡協議会が講演録に残したものだそうです。およそ10年前のものだそうで、今の風潮にはあっていないものもありますが、なぜがドキッとさせられるものと思っております。

家族がそれぞれ家族を想い、それぞれが敬いのところを耐えることなくそそぎあう。そこには相手に対する「欲」など微塵もありません。

私は先ほど掲げましたような子どもをつくる原因のひとつとして「親の成績欲」を掲げさせていただきます。成績については、親も子も上がって文句は何一つありません。唯一、親子間で共有可能な具体物だと思います。そこに落とし穴があるように感じます。成績のために、大切な「忘己利他」を忘れてしまい、上がったのが下がったのと、一喜一憂に明け暮れる姿、そして思うように子が結果を残せなかったものなら、感情がそのまま子にささげられ、気がついたら大切なものはなくなっていた。

親の責任もあるのですが、そもそもの根幹は「成績制度」にあるのかもしれませんが。ちなみにここに通う子たちに率直に聞いてみました。「君たち、学校がいきなり『明日からテストは一切いたしません』って言ってきたら勉強するかい?」……。「しな一い。」

子どもたちにとっての勉強は「成績」のためのもの、学ぶことの楽しさを知るには程遠い学校になってしまったのでしょうか。さて、また、お客様がいらしたら、お茶、出して差しあげてくださいね。ありがとね。